



# 花と歴史と愛のまち かせい

- 活力とゆとりに満ちた「ふるさと夢都市」をめざして -



# 花と歴史と愛のまち かさい

- 活力とゆとりに満ちた「ふるさと夢都市」をめざして -







加西市長 **柏原正之**

加西市は県下で21番目の市として昭和42年に市制を施行し、以後都市基盤の充実を図るため市政運営の指針として策定された「加西市総合計画」に基づき、花と緑の田園文化都市を標榜しながら総合的なまちづくりが展開され、この結果、道路、ほ場整備、下水道等の生活基盤並びに病院、学校等公共施設においても着実に成果を挙げてまいりました。

しかしながら、近年の高齢化、少子化の進展、高度情報化や国際化による産業構造の変化、更には個人のライフスタイル、価値観の多様化など社会情勢の変化は、国家レベルの問題であることは言うに及ばず地域社会にも様々な影響を与えております。

このため、昭和61年に策定されました第3次総合計画が本年3月を以ってその役割を終えることから、新たに平成22年（2010年）を目標年次とする第4次加西市総合計画を策定いたしました。

本計画は、行政推進の指標としての役割を担うだけでなく、「市民参画」という新しいスタイルで作成されたものであることから市民の共通指針という認識のもとに行政運営を行ってまいらなければならないものと認識しているところでございます。

現在の社会情勢の中で、「多様な価値観」を尊重しながら、市民一人ひとりが地域の中で何ができるかという視点にたった「共助」、そして市民や地域コミュニティ、企業・団体等を巻き込んだ様々な主体の「協働」によるまちづくりが、今後、必要不可欠なものと考えられます。

私たちは、激動の20世紀から新たな21世紀の初頭を「市民参画」を基本認識として、第4次加西市総合計画のキーワードである「花」「歴史」「愛」をテーマに、市民の皆様のような「ふるさと夢都市」の実現に向けた取り組みを展開してまいりたいと考えております。

終わりになりましたが、本計画の策定にあたりまして、計画の立案に携わっていただきました総合計画検討委員会の皆様をはじめ、貴重なご意見を拝聴いたしました市内外の方々、計画についてご審議いただきました総合計画審議会委員並びに市議会議員各位に対し、深く感謝の意を表する次第であります。



第1編 序論	1
第1章 計画の策定にあたって	2
第1節 計画策定の趣旨	2
第2節 計画の役割	2
第3節 計画の構成と目標年次	2
第4節 各分野の計画との関係	3
第2章 加西市の概要	4
第1節 地理的条件	4
第2節 自然的条件	4
第3節 加西市の歴史と沿革	4
第4節 加西市の特性	5
第3章 加西市を取り巻く潮流変化	7
第4章 加西市の課題	9
第1節 基本的認識	9
第2節 時代の潮流と住民ニーズに対応した課題	9
第2編 基本構想	11
第1章 計画の目標	12
第1節 計画の基本的視点	12
第2節 計画の基本目標	13
第2章 21世紀初頭における加西市の姿	16
第1節 人口・世帯数	16
第2節 土地利用	17
第3章 施策の基本方向	20
第1節 いきいき個性あふれる人づくり	20
第2節 安心して生活できる健康づくり	21
第3節 安全で豊かに暮らせる環境づくり	22
第4節 活力ある産業づくり	23
第5節 次世代を支える基盤づくり	24
第4章 目標実現のための重点施策	25
第1節 重点施策の体系	25
第2節 重点施策の概要	26
第5章 市民と行政の協働による計画実現に向けて	34

第1節 市民参画・協働によるまちづくりの推進	34
第2節 地方分権時代における行財政運営の確立	34
第3編 基本計画	35
第1章 いきいき個性あふれる人づくり	37
第1節 生涯学習の推進	38
第2節 学校教育の充実	41
第3節 青少年の健全育成	44
第4節 生涯スポーツの振興	47
第5節 芸術・文化の振興	52
第6節 国際交流の推進	57
第2章 安心して生活できる健康づくり	59
第1節 生涯にわたる健康づくりの推進	60
第2節 地域福祉の推進	63
第3節 地域福祉を支える基盤整備	68
第3章 安全で豊かに暮らせる環境づくり	71
第1節 災害に強い安心のまちづくり	72
第2節 犯罪・交通事故等のない安全で明るいまちづくり	75
第3節 環境共生社会の実現	77
第4節 循環型社会の実現	81
第4章 活力ある産業づくり	83
第1節 農林業の振興	84
第2節 工業の振興	89
第3節 商業・サービス業の振興	92
第4節 観光・ビジター産業の振興	95
第5節 労働対策の充実	99
第5章 次世代を支える基盤づくり	101
第1節 都市基盤の整備	102
第2節 都市環境の創出	106
第3節 交通基盤の整備	109
第4節 情報化の推進	112
第6章 市民と行政の協働による計画実現に向けて	115
第1節 市民参画・協働によるまちづくりの推進	116
第2節 地方分権時代における行財政運営の確立	121

# 第1編 序論

- 第1章 計画の策定にあたって
- 第2章 加西市の概要
- 第3章 加西市を取り巻く潮流変化
- 第4章 加西市の課題



## 第1章 計画の策定にあたって

### 第1節 計画策定の趣旨

加西市は、市政運営のための総合計画として、昭和61年に平成12年（西暦2000年）を目標年次とする第3次総合計画を策定し、「花と緑につつまれた人間交流都市 - かさい」の実現をめざし、国際的にも通用するハイレベルでハイセンスな田園文化都市づくりを総合的に推進してきました。

この結果、加西市では、都市づくりの各分野で着実に成果を挙げてきましたが、この間、高齢化や少子化の一層の進行、急速に進展する高度情報化や国際化による産業構造の変化、自由時間の増大による生涯学習社会への移行、女性の積極的な社会進出、価値観の多様化、個性化によるライフスタイルの変化など、地域社会にも様々な影響を与えています。

さらに、都市づくりもバブル経済崩壊後の長引く経済の停滞などによって、産業・開発優先の成長型の都市づくりから、地域の個性や魅力を生かした生活文化の見直しや自然と人との共生、安心と安全の暮らしを主体とした生活づくりの時代へと大きく転換しようとしています。

また一方では、地方分権一括法が施行され、地方分権がよいよ実行段階を迎えました。国、県、市の関係は、対等・協力の関係となり、地方自治体の自主的、自立的な地域経営のあり方が問われているところです。

今回策定する「第4次加西市総合計画」は、このような社会情勢の変化を背景に、複雑・多様化する地域のニーズや市民意識の変化の著しい状況を踏まえ、改めて都市づくりの方向を問い直し、平成22年（西暦2010年）を目標としたこれからの都市づくりの方向や都市の望ましい姿を展望して策定したものであり、市民と行政の知恵を集結しながらその実現を目指そうとするものです。

### 第2節 計画の役割

この計画は、地方自治の精神に基づき、市民の総意を得ながら策定したものであり、次のような役割を担っています。

第1に、新しい時代の流れに直面しつつある市民が、明日の加西づくりに取り組む熱意と心がまえを表現し、市民の様々な活動に際しての指針を示すものです。

第2に、市政運営のための長期的な総合指針として、諸施策すべての基礎となるものであり、毎年度の予算と連動する短期計画（実施計画）の上位計画として位置づけられるものです。

第3に、国、県等が各種の地域計画を策定し、その諸施策を推進するにあたって、最も尊重すべき指針となるものです。

### 第3節 計画の構成と目標年次

この計画は、基本構想と基本計画から構成されます。

#### 1, 基本構想

当面する市民の生活課題や地域課題を見極めながら、21世紀初頭の加西市の望ましい将来像を展望し、これに立脚した長期にわたる基本的目標と目標達成のために必要な施策の構想を明らかにしたもの

で、基本計画の基礎となるものです。この構想の目標年次は、平成22年（西暦2010年）とします。

#### 2, 基本計画

基本構想に基づき、施策の大綱および具体的施策の形成のための根幹的主要事業を示すとともに、施策ごとに現況と問題点および将来への方向づけを行うものです。この計画の目標年次は、平成22年（西暦2010年）とします。

### 第4節 各分野の計画との関係

総合計画は、基本構想と基本計画から構成され、加西市の将来像とその実現に向けた、市民をはじめ企業、NPOなどの団体、行政など加西市で活動する様々な主体がこれから取り組むべき方向を示しています。加西市の行う施策については、総合計画での位置付けをもとに事業予算化され、順次具体化されることになります。

また、総合計画で明らかにする基本目標と整合を図りつつ、この実現のため、福祉や都市計画をはじめとする各分野で具体的な個別計画を社会経済の動向に対応して策定していきます。

#### 総合計画の役割

##### 市民・企業等団体にとって

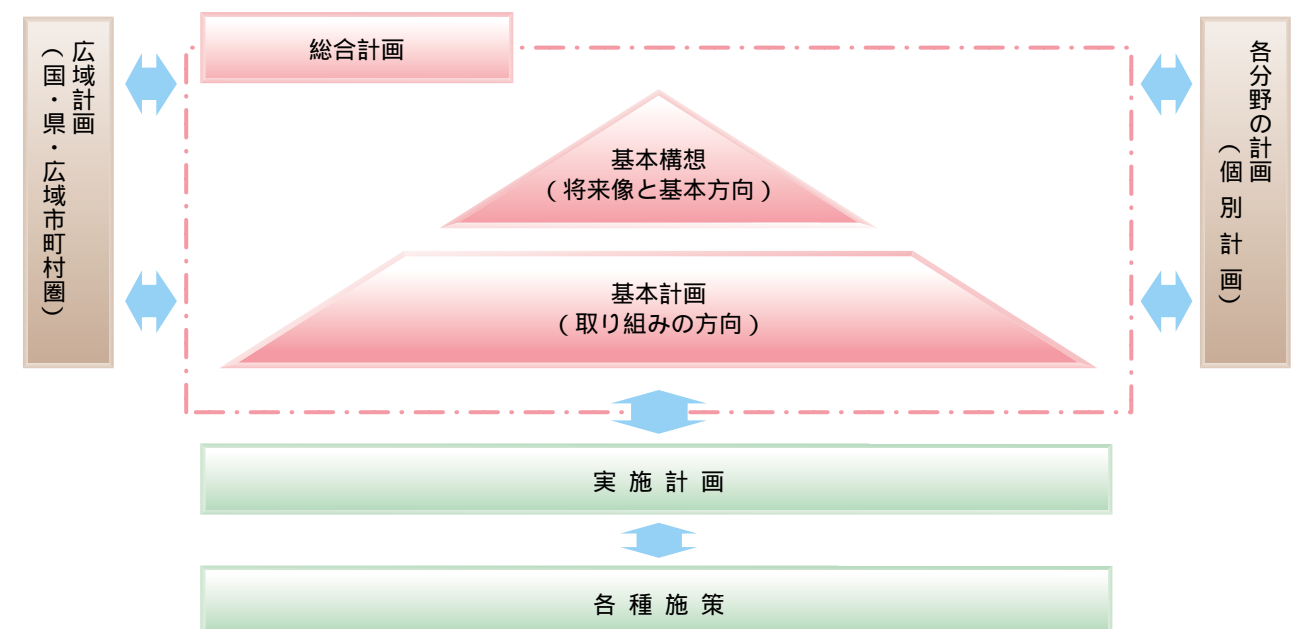
- ・市民それぞれの活動に際しての指針
- ・総合計画の実現に向けた主体的な取り組みや参画の実行
- ・市政に対する理解とまちづくりに対する市民意識の向上

##### 市行政にとって

- ・市政の総合的かつ計画的な運営指針
- ・各分野個別計画の策定・推進にあたっての基本的考え方
- ・各種施策を実施する上での推進基準

##### 国・県・広域市町村圏にとって

- ・各種地域計画の策定、諸施策において総合計画を理解することが期待され、実現に向けて最も尊重すべき指針
- ・市域を越えた交流や連携がさらに展開されるための支援・協力が得られることへの期待



## 第2章 加西市の概要

### 第1節 地理的条件

加西市は、兵庫県の南部、播州平野のほぼ中央に位置するとともに、中国自動車道や山陽自動車道の国土幹線に位置し、大阪から自動車ではほぼ1時間圏という恵まれた立地条件を有しています。

市の北部には、古生層の山地（海拔300～500m）が連なり、中国山地の裾野を形成しています。そこに源を發する万願寺川、普光寺川、そして下里川の3河川は、丘陵・段丘面を刻み沖積低地を形成しながら万願寺川に合流し、さらに加古川に合流しています。

また、市の中央部を流れる万願寺川の東側には広大な青野ヶ原台地が、西側には鶉野台地が広がり、播磨内陸地域最大の田園を中心とした平坦地を形成しています。特に、この一帯はため池が数多く点在し、県下でも有数の密集地帯であり、水と緑豊かな田園空間の演出に役立っています。

一方、市の南部は、中世代の火山活動で形成された凝灰岩類、流紋岩類を母岩とする山地（海拔200～250m）を形成しています。

### 第2節 自然的条件

加西市の気候は、瀬戸内式に属し、冬季の降水量が少なく年間1,300mm前後、平均気温は16度Cと温暖で暮らしやすい居住環境となっています。

加西市は、古くから水資源に乏しく、点在するため池や加古川支流などに依存してきましたが、国営ダムの完成により、農業用水に大きな変革をもたらしました。

周囲の山々は、中国自動車道以南では、アカマツ群落を主体とした雑木林ですが、以北ではスギ、ヒノキなどが茂る山林が広がり、緑豊かな自然環境を有しています。

### 第3節 加西市の歴史と沿革

#### （1）加西市の歴史

加西市は、県下でも早くから生活の営みが始まったところであり、逆池、善防池、西笠原、亀ノ倉、皿池などの遺跡からは、先土器時代の石器をはじめ多数の出土品がみられます。特に、古墳時代には、「針間鴨国」として栄え、豪族が強大な力を持ち、玉丘古墳をはじめ300基にもものぼる古墳群を今日に伝えています。

そして、鴨国は都に通じており、都の高い文化がいち早く導入され、古法華や法華山一乗寺にその面影をみることができます。

平安時代から鎌倉時代になると、人々の間に深く仏教が信仰されるようになり、吸谷の石造塔婆をはじめ石造品、石仏の名品がたくさん作られ、今も生活の中に溶け込んでいます。加西の文化の特徴は、石造文化にあるともいわれています。

室町時代からは武家時代の戦場として、小谷城、善防山城などの築城された様子が赤松氏の軍記の中にもみられます。

江戸時代は、北条などに交易の中心となる市場町ができ、広い商業圏を形成していました。この市内

唯一の市場といえる北条町は、古くから住吉神社、酒見寺の門前町として、また山陰、山陽を結ぶ商人の宿場町として栄えてきました。

明治時代以降は、江戸以来の「播州白木綿」の伝統を發展させた播州織の町として西脇とともに一大中心地となりましたが、現在はかつての勢いが見られなくなっています。

また戦後は、三洋電機が進出し、家電産業が栄えましたが、産業構造の変化とともに、そのウエイトは相対的に低くなってきています。一方、農業は昔から非常に盛んであり、かつては水稻のほか、丘陵地にはだいこん、ばれいしょ、すいか、ぶどう等が広く栽培され、京阪神地域に出荷されていました。現在では水稻を基幹作物としながらも、果樹をはじめ、花き等の園芸作物も盛んに作られています。

加西の地に育った伝統と歴史が、21世紀のまちづくりのための、地域の個性を育む貴重な資産となっています。

#### （2）加西市の沿革

明治22年の市町村制施行によって、加西市の母体となる加西郡は、北条町、富田村、賀茂村、下里村、九会村、富合村、多加野村、西在田村、在田村、芳田村（昭和27年西脇市に合併）、大和村（昭和29年八千代町に合併）の1町10村に再編成されました。さらに、町村合併促進法制定後の昭和30年1月15日に、北条町、富田村、賀茂村、下里村の1町3村が合併して「北条町」となりました。次いで、昭和30年3月1日には多加野村、西在田村、在田村の3村が合併し、「泉町」となり、さらに昭和30年3月30日には九会村、富合村の2村が合併し、「加西町」となりました。

昭和42年4月1日に、北条町、泉町、加西町の3町は、「加西郡は一つ」という理念のもとに合併し、県下21番目の市として現在の加西市が誕生しました。

### 第4節 加西市の特性

以上、加西市の地理的条件、自然的条件と歴史等から整理すると、加西市は、次のような5つの特性やポテンシャル（潜在能力）を有しているものといえます。

#### 兵庫「5弁の花」の中心に位置する都市

加西市は、兵庫県のほぼ真ん中に位置します。県域を摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の5つの地域に分け、これを花に例えると5弁の大輪の花となり、その中心といえます。

#### 自然豊かな田園が広がる花と緑の都市

大都市近郊にありながら、日本の原風景というべき田園やため池、里山、さらにはフラワーセンターの存在は、自然との共生が求められる時代においてかけがえのない、また、大切に守り育てるべき資産といえます。

#### 歴史的・文化的資産が豊かな都市

歴史・文化環境として玉丘古墳、法華山一乗寺、五百羅漢、小谷城跡などの伝統的・歴史的な資産の蓄積があり、伝記の掘り起こしやPR、ネットワーク整備により、観光資源として活用できる可能性をもっています。



## 国土幹線上に位置する立地の良い都市

大都市近郊に位置し、中国道・山陽道で大阪から車で1時間というアクセス条件は、産業立地、生活利便性において大きな飛躍が期待できる環境といえます。

## 気候温暖で住みやすい都市

年間を通じて雨が少なく、日照にも恵まれた温暖な気候であり、高齢者にとっても安心して生活できる居住環境といえます。

## 第3章 加西市を取り巻く潮流変化

### 1. 少子・高齢化と人口減少の時代

出生率の低下を主因として、我が国の人口は平成19年（西暦2007年）をピークに、その後減少局面に移行し、急速に高齢化が進行するものと予測されています。

この結果、21世紀初頭以降、労働力供給の減少、医療・介護負担の増大などによる投資余力の減少が見込まれ、社会システムの効率化や基盤投資の重点化、効率化が一層求められるようになります。

### 2. 価値観・ライフスタイルの多様化

戦後の経済成長により、所得水準の向上と物質的な豊かさは達成されてきましたが、物の豊かさとともにゆとりやうるおいといった精神的な豊かさを重視する傾向が一層強まっていくものと考えられます。

こうした価値観の変化に加えて、自由時間の増大、交通・情報網の発達等を背景に、自らの個性を發揮しながら、自己実現を目指す人々が増加し、職業選択、就労形態、衣食住のあり方、余暇の過ごし方、社会参加のあり方などライフスタイルも多様化していくものと思われます。

多様な選択肢の中から、個人が主体性を持ち、かつ自らの責任において、その感性やニーズに適合したサービスや活動機会を選択できる社会が求められます。

### 3. グローバル化の加速

経済のグローバル化の進展などを背景に、社会・経済・政治・文化など様々な分野において、各国間の距離は急速に接近し、人・物・情報・資本などが交流する地球時代を迎えようとしています。我が国においても、世界、特に急速な経済発展を遂げているアジア地域との交流量は飛躍的に増大していくものと見込まれ、世界の国、地域、個人と直接に活発な交流が展開されていくものと予想されます。

### 4. 地球環境問題の顕在化

近年、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨被害など地球規模に及ぶ環境問題が顕在化しており、将来にわたり人類が持続的発展を遂げるために解決すべき共通の課題となっています。また、今後世界人口の増加や先進国、途上国における社会経済活動の様式が現状のまま続いていけば、食糧や資源・エネルギーの供給面の制約が表面化する恐れがあります。

加西市においても地球社会の一員として、大量生産・大量消費、大量廃棄型の社会経済構造を見直し、産業活動や生活様式を省エネルギー・省資源・リサイクル型のものへと転換することが求められています。

### 5. 高度情報社会の進展

情報通信技術（IT）のめざましい進展により、21世紀初頭には、これまでの時間・距離の制約が大幅に緩和されます。そして、育児中の女性の選択可能性の拡大、障害者や高齢者にとってハンディキャップを克服する技術としても期待されています。生活面では、住む場所や働いたり学んだりする場所の選択の幅が広がるとともに、教育・研究、福祉・医療、行政など様々な分野におけるサービスの高度化、利便性の向上が図られます。産業面では、電子商取引をはじめ情報通信分野を中心とした新たな企業の発展が見込まれ、企業経営の効率化が進み、SOHOなど企業形態・勤務形態が多様化していくものと予想されます。



## 6 産業・雇用構造の転換

国際的な競争の激化、情報化・知識集約化・技術革新の進展などを背景に、我が国の産業構造は大きな転換を迫られています。また、経済的規制の撤廃・緩和などによる開かれた経済社会への転換が強く求められています。



## 第4章 加西市の課題

### 第1節 基本的認識

加西市は、温暖で暮らしやすい環境を有するとともに、中国自動車道や山陽自動車道の国土軸上に近接するという恵まれた立地条件を有しています。このように加西市が、都会の人にとって定住するまちとして非常に魅力的な都市であるにも関わらず、人口はこの10年間横ばい傾向にあります。一方、生活空間や自由時間を重視する傾向が強まり、都会よりも地方で生活する方が、豊かな自然と人情の中で、より大きな心の満足が得られるという考え方が広がってきています。

今後、雇用面で仕事の側面がきちんと整えられ、地方において自分の専門性を十分生かし、また自分の趣味、関心に合致する仕事が行えるという環境が整えられるならば、地方へのU・J・Iターンという現象はますます顕著になっていくものと予想されます。

このため、加西市が持つ可能性と潜在能力を開花させて、「加西市に住み続けたい、訪れてみたい、移ってきたい」と思わせるまちづくりを展開していく必要があります。



### 第2節 時代の潮流と住民ニーズに対応した課題

21世紀初頭にかけて、我が国の社会経済構造の枠組みを大きく変化させる時代の潮流や加西市の特性、「住民意識調査」の調査結果等を踏まえ、今後の加西市が対応すべき課題は、次のようにまとめることができます。

#### 1, 少子・高齢化への対応

加西市においては若年層の流出もあって少子・高齢化が一段と進行する中で、平成22年には高齢化率21%と見込まれ、このままでは都市の活力の低下を招き、様々な分野において影響を及ぼす懸念があることから、産業の活性化による基礎体力の強化と合わせ、安心して子どもを産み育てることができる環境、高齢者が生きがいを持って働くことができる環境など安心のセーフティ・ネットの形成が求められます。また、子ども達に「ふるさと」の良さを家庭や地域コミュニティの中で意識づけることは、たとえ、若者が進学等で都会に出たとしても、卒業後は「ふるさと」(加西市)に回帰してくることが大いに期待されることから、子どもや若者にとって心の財産となる「ふるさと」づくりが重要であるといえます。

## 2, 新たな国際化の促進

加西市においても外国人が、近年大幅に増加してきており、約800人の人々が暮らすようになっていきます。これまで進めてきたワシントン州プルマン市との国際交流ばかりでなく、外国人が安心して暮らすことができるよう、本格的国際化の時代に対応した幅広い生活環境空間の整備が求められます。

## 3, 循環型社会の形成

地球環境問題が顕在化する中で、「より質の高い生活(クオリティ・オブ・ライフ)」を創造するため、加西市の優れた田園、ため池や里山の景観を守り育てるなど魅力と個性ある加西市の地域特性を生かした循環型社会の形成が求められます。

## 4, 高度情報通信技術の活用

21世紀は、IT革命により、産業、家庭生活のあり方が大きく変化することから、地域の誰もがネットワーク型社会の恩恵が受けられるよう、便利で快適な生活に密着した高度情報社会への的確な対応が求められます。

## 5, 地域活力の創出

長い歴史に育まれた生活文化の発信や活力の源泉となる産業の創造、そして意欲があり地域社会の次代を担う人材育成により、地域のポテンシャルを発揮して、地域を活性化させることが求められます。加西市には、フラワーセンターのみならず、古代における根日女(ねひめ)のロマンあふれる伝説をはじめ、江戸時代の町並みなど数々の歴史的・文化的資産がありますが、現在必ずしも有効に生かされているとは言えません。また、都会の人々の心を癒し、落ち着かせる、日本の原風景ともいえるため池や田園風景、里山等の優れた景観を有しており、このような加西市の良さをまず知ってもらう「訪れてみたいまちづくり」を進めることが重要です。

## 6, 市民参画・協働のまちづくり

現代は、従来のように都市の人口や経済規模を競う時代ではなく、都市の特色や魅力、そして市民の多様で積極的な生き方が問われ、多様な価値観に対応した「サービスの提供」が問われる時代になってきています。

一方、行政への市民参画は、いまや地方自治の原点となっており、市民一人ひとりが、地域社会での取り組みに積極的に参画する、市民による市民のためのまちづくりを進めていくことが大切になってきています。

その結果生まれる「わがまちの意識」が、「ふるさと」と呼ぶにふさわしい、市民が誇り、愛するまちをつくる原動力となるものです。

また、多様な価値観に対応していくためには、市民だけでなく、企業、団体・NPO、行政など加西市で活動する主体が共通の基本的な考え方に立って、適切な役割分担の下、情報公開など主体的な取り組みを促進する仕組みを構築した上で、参画と協働によるまちづくりの推進が重要になってきています。

## 7, 地方分権時代に対応した行財政運営

市民や企業・団体などの主体的な参画と協働のまちづくりを進めるとともに、一方では本格的な地方分権時代を迎え、行政は行政としての地域コーディネーター的な役割を果たしていくことが課題です。

そして、行政サービスの向上を図るため、効率的で計画的な行政運営に取り組むとともに、アカウンタビリティ(説明責任)に基づき健全で効率的な財政運営が求められています。

# 第2編 基本構想

第1章 計画の目標

第2章 21世紀初頭における加西市の姿

第3章 施策の基本方向

第4章 目標実現のための重点施策

第5章 市民と行政の協働による計画実現に向けて





## 第1章 計画の目標

### 第1節 計画の基本的視点

私たちは、これからの時代の大転換期を迎えるにあたり、グローバルな観点と地域コミュニティを基本とした地域的な視点を合わせ持ち、異なる価値観や個性をお互いに認め、尊重し合いながら、生まれ育った地域に愛着を持ち、様々な地域の活動に主体的に参画していく、共助・協働社会を実現することが重要と考えます。

即ち、21世紀の加西の地域づくりを進めるためには、市民のみなさんをはじめ、企業、NPO、行政など加西で活動する各主体それぞれが「共助・協働社会の実現」という共通の認識に立ち、適切な役割分担や連携のもと、取り組みを進める必要があります。

#### (多様な価値観と個性の尊重)

これまで、どちらかといえば画一的な価値観にあわせていくことが良しとされた時代でした。しかし、成熟社会においては、心の豊かさや生活のゆとり、うるおいを求める方向へ人々の価値観が変化し、文化や人間関係を育むことを通じて、真に豊かな生活の実現を求めようとしています。

また、グローバル化の進展に伴い、ひと・もの・情報の国際交流が盛んになり、様々な価値観、考え方に触れる機会が増大してきています。このような状況の中で、すべての人がお互いの人権を尊重し、様々な文化や価値観を認めあうことにより、誰もが自分らしく暮らせる社会を築いていくことが求められています。

したがって、多様な価値観と個性を寛容の精神で尊重し合い、一人ひとりがそれぞれの価値観に基づき、自分のしたいこと、自分のできることを見つけ、その人らしさを育ていけるような環境づくりと、一人ひとりが自由に挑戦(チャレンジ)できるしくみやその成果に対する賞賛(インセンティブ)により、すべての人の個性を生かしていくことが必要です。

#### (共助・協働社会の実現)

これまで生活に関わる基本的なことは行政主導型の「公助」(パブリック・ヘルプ)の社会を築いてきました。しかし、世界に類例のないスピードで少子・高齢化が進行する中で、市民の様々なニーズにきめ細かく対応し、地域の中で自分の居場所を感じながら、生きがいと安らぎを持てるような環境を作っていくためには、地域社会やボランティア、様々な中間組織が助け合っていくという精神がこれからの社会に必要なになっています。

このように、今後「共助」、すなわち「人権尊重」、「思いやり」、「共感」の精神に基本を置いた「助け合い」のシステムを構築して、まず地域コミュニティを中心とした「共助社会」を構築していくことが求められています。

さらに、本格的な成熟社会に入り、行政依存型ではなく、住民の主体的な参画・主導による地域づくりに対する気運が一層高まってきていることから、共助から一步踏み込んで、市民、企業・団体、NPO、行政など加西市で活動する各主体それぞれが共通の基本的な考え方に立って、適切な役割分担や連携による地域づくりの新しい展開が必要になっています。

このように地域の課題を地域自らが解決するために行動し、様々な主体が新たな連携と協働を通じて価値創造を図る「協働社会」を実現していくことが求められています。

### 第2節 計画の基本目標

21世紀の社会は、精神的・質的な豊かさがより重視される社会、市民誰もが社会の重要な担い手として尊重され、いきいきと活動できる社会が求められます。

このような21世紀社会の展望に立つと、加西市の「フラワーセンター」をはじめとする花と緑にまつまれた豊かな自然や石仏等に見られるやわらかな歴史、その中で育まれた人のつながりと個性的な文化や地域産業を守り活かすことが大切です。

そして、交通・情報ネットワークによる市内外の人・物・情報の活発な交流を通して、新しい感覚と発想で文化や産業を創造することにより、市民一人ひとりが真に豊かさゆとりを実感でき、しかも、それぞれの夢が着実に実現できる「花と歴史と愛のまち かさい」が都市づくりの目標といえます。

花と緑を愛し育てることは、人々に喜びと感動を与え、多様な交流を生み出すとともに、ふるさとの歴史を学び、地域を知ることによって人々が互いに参加・協力しあう心豊かな地域社会づくりに貢献することができます。

また、花が持つ心身を癒し、人々を大いに元気づける効果や石仏等の歴史的資産が生み出す文化環境による郷土への愛着や地域における思いやり等により、市民はもとより、加西市への来訪者が加西市の良さを発見、あるいは再認識して、加西市が「夢のあるふるさと」と感じられる快適空間となり、このことが元気と活力を生み出す源泉となります。

そして、このような長い地道な協働の取り組みや来訪者との交流を通して、市民一人ひとりにとって活力とゆとりに満ちた「ふるさと夢都市」の実現へと発展していきます。

したがって、21世紀の都市づくりの第一歩となるこの「計画の基本目標」を、次のとおりとします。

## 花と歴史と愛のまち かさい

- 活力とゆとりに満ちた「ふるさと夢都市」をめざして -

ここで、「花と歴史と愛のまち かさい」とは、花にまつまれた、歴史を育む環境の中で、人が元気であり、環境にやさしく、あたたかさの中で暮らせる都市であり、このような都市を支える多様な価値観と個性が尊重され、共助・協働社会が実現されている都市を指します。

市民の様々な価値観、思いに応じた豊かさや自己実現が図れる「花と歴史と愛のまち かさい」創造の具体的な実践により、加西市に「訪れ、移り住み、住み続ける」人々が増大して、「活力とゆとりに満ちた「ふるさと夢都市」」が実現できます。



## 施策の大綱 計画実現のシナリオ



## 施策の基本方向

多様な価値観が尊重され、共助・協働社会の「ふるさと」の中で、市民の思い、夢が実現できるという21世紀初頭のかさいの都市像 活力とゆとりに満ちた「ふるさと夢都市」を目指すため、次の5つの柱を「施策の基本方向」として設定し、「花と歴史と愛のまち かさい」を創造していくこととします。

### 施策展開の5本柱

1. いきいき個性あふれる人づくり
2. 安心して生活できる健康づくり
3. 安全で豊かに暮らせる環境づくり
4. 活力ある産業づくり
5. 次世代を支える基盤づくり

## 第2章 21世紀初頭における加西市の姿

### 第1節 人口・世帯数

#### 1. 総人口

加西市の人口は、高度成長時代には高い増加率で推移してきましたが、昭和60年に52,000人に達した後は、少子高齢化傾向を示しつつ横ばいで推移しています。

加西市では、今後さらに観光等による交流が活発化することから、定住人口以外で市域外から流入する人々の増大が予想されます。

したがって、本計画では将来人口フレームとして従来から用いられている「定住人口」と、新たに観光等により流入する「滞在人口」を位置づけ、それぞれ政策目的に応じて使い分けるものとします。

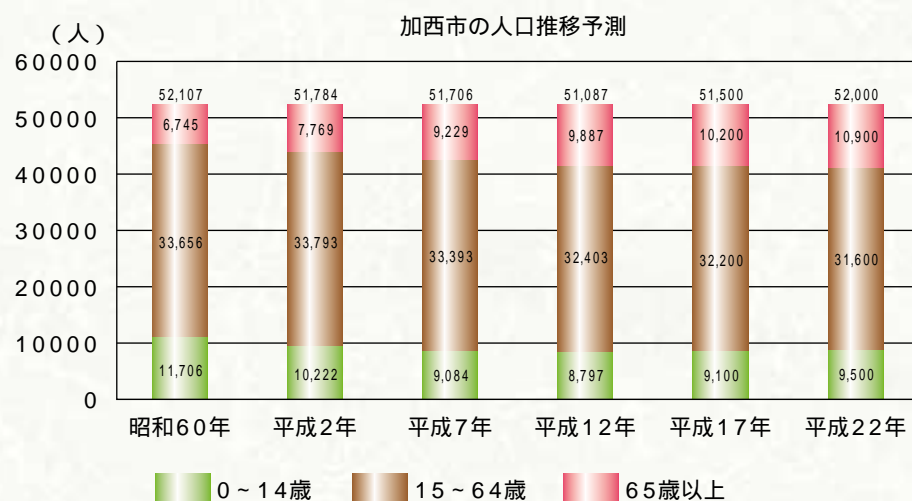
計画の目標年次である平成22年（西暦2010年）における「定住人口」は、コーホート変化率法より予測される人口49,500人に、住宅開発や都市機能の整備などで見込まれる増加人口2,500人を加えて52,000人（国勢調査ベース）と設定します。また、「滞在人口」は、3,000人を見込みます。

\* 下水道整備や道路整備など基盤整備については、実質的に市内に滞在する人々である「滞在人口」を加味した55,000人を対象として整備を行うものとします。

また、年齢階層別人口における老年人口（65歳以上）の占める割合は年々増加し、昭和60年の12.9%が計画目標年次の平成22年には21%に達すると予測され、加西市においても人口の高齢化が急速に進展するものと考えられます。

#### 2. 世帯数

今後世帯数は、高齢世帯の単独世帯化、晩婚化の進展による単独世帯の増加などが予想されますが、これまでの世帯数の推移も考慮して、平成22年（西暦2010年）の世帯数フレームを16,000世帯（国勢調査ベース）と設定します。



注1：予測は、昭和50年から平成7年までのデータを用いコーホート変化率法により予測し、平成12年の速報値と調整した上で、平成17年および平成22年の将来人口を予測している。  
注2：平成17年以降は予測値。ただし平成12年は速報値のため、内訳は予測値である。

### 第2節 土地利用

#### 1. 現状

加西市の土地利用の特徴は、起伏の少ない平坦な地形の中に、農地、林地、宅地、道路、河川、ため池が複雑にモザイク模様を織り成し、独特の田園景観を醸し出しています。土地利用別面積をみますと、森林が44%、農用地が27%であり、自然的土地利用は71%を占めます。一方、宅地は7%、道路は5%を占め、これらの都市的利用は12%となっています。

土地利用の動きをみますと、減少しているのは農用地、森林などであり、逆に都市的土地利用である宅地、道路は大きく増加していますが、昭和50年代後半から平成にかけての急速な都市化は近年鎮静化し、開発動向も緩やかになっています。

森林は市域北部と南部に広がっており、広い範囲で保安林が指定されていますが、まとまった面積での指定は少なく、小面積の保安林が多数分布しています。また、南部山地の多くは播磨中部丘陵県立自然公園地域に指定されています。

農地については、農地面積のうち、約9割が農業振興地域に指定され、農業振興が図られています。

#### 2. 基本方針

土地は、現在および将来における市民のための限られた資源であり、生活および生産などの活動の基盤であることから、次の3つの方針を基本として、総合的かつ計画的な土地利用を推進します。

- 「日常生活に便利な土地利用」
- 「自然と共生したゆとりある土地利用」
- 「持続的発展が可能な土地利用」

#### 3. 今後の土地利用

土地利用にあたっては、上記の3つの方針の下、土地の性質や地域の特性などの自然的、社会的、経済的および文化的条件等に配慮しながら、

- ・公共の福祉の優先
- ・市民生活の基盤となる生活空間の向上
- ・調和のとれた計画的な土地利用

が図られるよう、次のようにゾーニングを行います。

##### (都市ゾーン)

古くから加西市の中心として発展してきた既成市街地とその周辺区域を市街地とし、既成市街地では宿場町・門前町の面影を残す町並みを保全・整備するとともに、都市機能の整備と市街地環境の向上を促進し、安全・便利で快適な都市空間の形成を図ります。また、その周辺において今後市街化が予想される地域では、計画的な都市基盤の整備と良好な宅地の供給を促進し、均整のとれた市街地形成を図ります。

##### (地域核ゾーン)

旧町村の中心地等でまとまった人口を有し、周辺を含めた日常生活拠点として機能している地域を地域核とし、快適な生活環境を維持するための主要な公共施設や生活基盤施設の整備に努めます。また、日常生活に不可欠な便利施設の立地を図り、各地域の中心地としての利便性の確保に努めます。



# 基本構想

## （住宅開発ゾーン）

北条鉄道沿線などに点在する環境良好な丘陵地など、住宅地としての活用が望まれる開発適地を住宅開発ゾーンとし、鉄道沿線地域等での人口定着を進め、地域活力の向上と鉄道の活性化にも資するものとします。鉄道沿線の利便性を十分に活用し、緑豊かな森林やため池など恵まれた環境と豊かな景観を活かすとともに、敷地内緑地空間や緑の緩衝帯を確保するなど、周辺地域と調和した住宅地の形成を図ります。

## （田園環境ゾーン）

加西市の景観を特徴づける広々とした農地およびその中に点在する農村集落を田園環境ゾーンとし、本市産業の基盤である農業の振興を図るため、農道等の生産基盤整備を推進します。また、点在する農村集落での快適な生活環境を維持するため、集落排水施設等の生活基盤施設の整備を推進します。

## （広域交流ゾーン）

加西市のレクリエーション活動の中心であるフラワーセンターやいこいの村はりまをはじめ、加西球場、加西勤労者体育センター、玉丘史跡公園など、大規模なレクリエーション施設の集積地を都市交流拠点とし、市民のみならず市外からの来訪者も含めた憩いの空間とします。

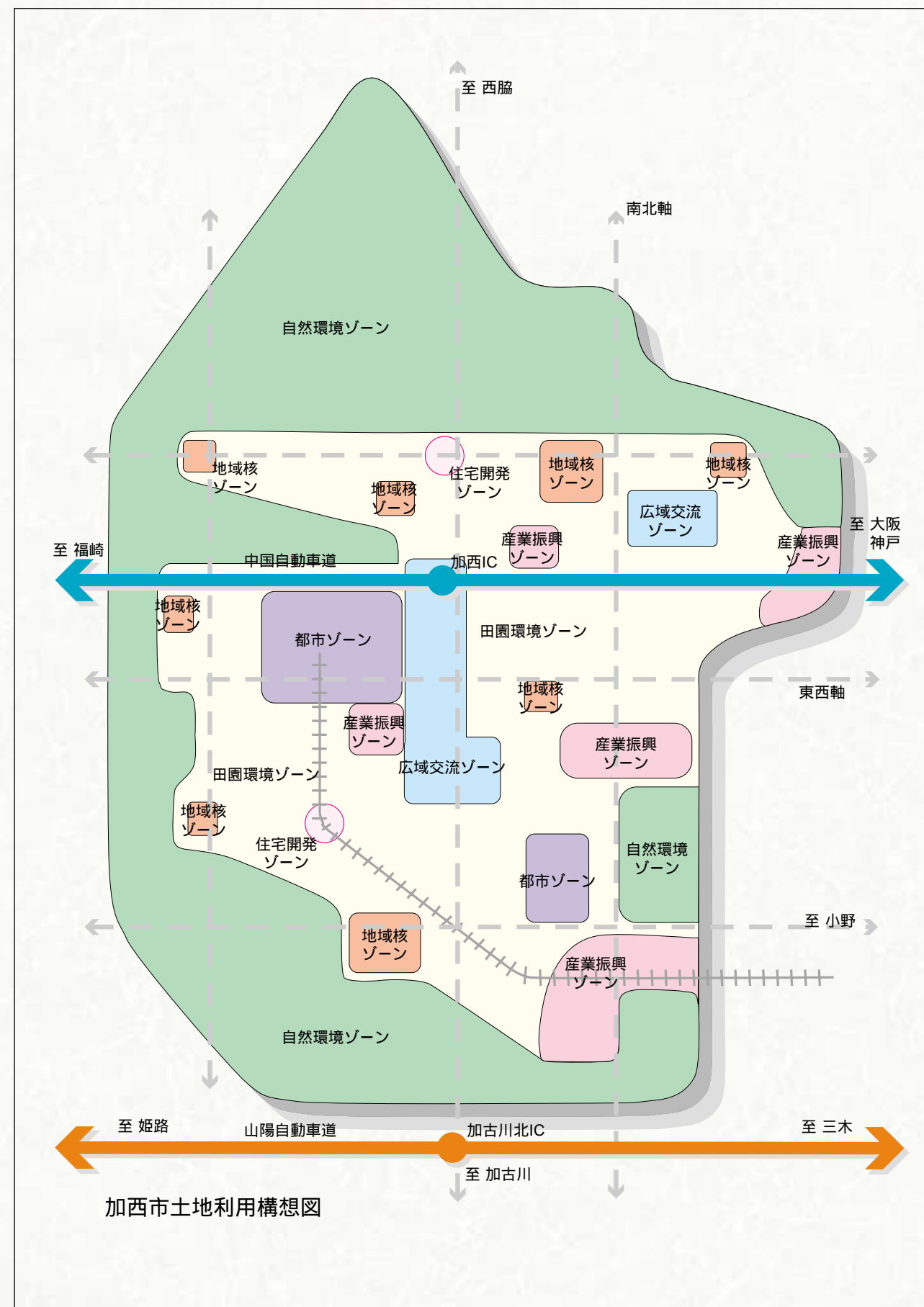
また、中国自動車道加西インターチェンジ周辺地区をインター周辺交流拠点とし、国土軸上にある交通利便性を最大限に活用し、新しい交流拠点エリアとして、現行の農業施策との調整を図りつつ、周辺環境とバランスのとれた整備を推進します。

## （自然環境ゾーン）

北部の山林地域および南部の県立自然公園を含む山地を自然環境ゾーンとし、動植物の生息に適した自然環境を保全するとともに、加西市の周囲を緑の帯で取り巻く貴重な景観資源として位置づけ、森林が本来持っている機能を保全します。また、市民が自然に親しむのに適した地域については、自然環境を保全しつつ利用できるよう、古法華自然公園や加西の森総合公園などを人と自然のふれあいの場として整備します。

## （産業振興ゾーン）

計画的に整備された産業団地と幹線道路沿道既存工場集積地、開発適地としての特定用地などを産業振興ゾーンとし、地域間のバランスに配慮した適正な配置を計画的に推進します。開発にあたっては、アクセス道路等の整備を推進するとともに、公害防止対策、工場内緑化などに十分配慮し、周辺地域の環境に調和した産業団地の形成を図ります。



加西市土地利用構想図



## 第3章 施策の基本方向

### 第1節 いきいき個性あふれる人づくり

21世紀の加西をつくる主役は市民自身であることから、市民がいきいきとした生活を送ることができ、市民自立の社会を形成するため、市民の多様な活動を支援し、「いきいき個性あふれる人づくり」を推進します。

#### （生涯学習の推進）

情報化、国際化、高齢化など、急激に変化する社会経済環境の中で、市民の持つ個性や能力、創造性を最大限に伸ばし、主体的かつ的確に行動できる人材づくりが何よりも大切です。このため、市民がいつでも、どこでも、誰でも自由に学ぶことができ、学んだ成果が活かせる生涯学習を推進します。また、地域に根ざした社会教育、自他ともに尊重する心を醸成する人権教育等の推進に努めます。

#### （学校教育の充実）

学校教育では、社会の変化に主体的に対応し、活力ある社会を創造していく力を培うため、自己教育力の育成と個性を伸ばす教育を推進します。また、文化・体育活動や自然体験、奉仕体験などの多様な体験的活動を通して、豊かな心と感性を育むとともに、公共性に富み、他者を思いやり、たくましく生きる人間の育成に努めます。

#### （青少年の健全育成）

未来を担う青少年については、自主性と社会性を備え、心豊かな人間として成長することが期待されており、学校、家庭、地域社会の密接な連携のもと、これらが主体となって総合的に取り組むとともに、行政としても、これを側面支援するための施策の展開を図ります。

#### （生涯スポーツの振興）

身近なスポーツの振興や多様化するスポーツ・レクリエーション志向に対応できる環境づくりや、スポーツイベントによる生涯スポーツの振興を積極的に推進します。

#### （芸術・文化の振興）

生活の中に息づく豊かな芸術や文化を更に発展させ、うるおいと創造性に富んだ社会を形成することが必要です。このため、一人ひとりの芸術や文化に対する感性を高め、芸術・文化活動の一層の活性化を図りながら、交流等から生まれる新時代にふさわしい芸術・文化の振興に努めます。

#### （国際交流の推進）

ブルマン市と友好提携で国際交流を図ってきましたが、さらに様々な分野で世界各地との交流や国際貢献を進めます。市民の国際意識の醸成に努めるとともに、国際社会に対応できる人材を育成し、外国人が訪れやすく住みやすい地域づくりを推進します。

### 第2節 安心して生活できる健康づくり

一人ひとりのライフスタイルにあった健康づくりや地域福祉を推進するなど、市民の健康増進を図る「安心して生活できる健康づくり」を推進します。

#### （生涯にわたる健康づくりの推進）

生涯を通して心身共に健康で過ごすことは、市民誰もの願いであることから、生活習慣病などに対するきめ細かな予防対策や体系的かつ包括的な保健医療福祉サービスの充実等による健康都市づくりを推進するとともに、体系的な医療供給体制の確立など医療の充実を図ります。

#### （地域福祉の推進）

高齢者や障害者も含むすべての人が、いつまでも元気で住み慣れた地域や家庭で暮らせるために、人権意識の高揚、高齢者の生きがい対策など高齢者福祉の充実、また安心して子どもを産み育てることができるすこやかな子育て支援、児童・母子福祉の充実、さらに「ノーマライゼーション」の理念に基づく障害者福祉を推進します。

#### （地域福祉を支える基盤整備）

障害のある人もない人も地域で共に生活できる社会の実現のため、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れるなど高齢者・障害者にとっても利用しやすい施設づくりを行うとともに、福祉を支える人づくり、また、安心して生活を送るために必要な介護・医療保険、年金などの社会保障制度の充実など地域福祉を支える基盤整備を推進します。

## 第3節 安全で豊かに暮らせる環境づくり

安全で安心して生活できる暮らしの実現や豊かな地域環境の創造など、市民が「安全で豊かに暮らせる環境づくり」を推進します。

### （災害に強い安心のまちづくり）

安全で安心して生活できる暮らしを実現するため、「自分たちの町は、自分たちで守る」という自主防災の取り組みを推進しながら、県・市・防災関係機関および市民が一体となった総合防災体制を構築し、地震や風水害などあらゆる災害から市民の生命と財産を守る、災害に強い安心のまちづくりを推進します。

### （犯罪・交通事故等のない安全で明るいまちづくり）

平和で安全なまちづくりを目指し、地域安全体制や交通安全体制の充実を図り、犯罪・交通事故のない安全で明るいまちづくりを推進します。また、県と連携を図り、市民が合理的な消費生活を営むことができるよう消費生活情報の収集と情報提供の充実に努めます。

### （環境共生社会の実現）

加西市には現在豊かな自然環境が残されていることから、市民が良好な環境を享受し、次の世代に引き継いでいくため、これらの自然環境を保全していくとともに、自然と人との間に豊かな交流を保つことよって、健全な自然環境の維持・回復を図ります。また、大気や水質の保全に努めるとともに、環境にやさしいライフスタイルの確立により、快適な生活環境の構築を推進し、環境共生社会の実現を図ります。

### （循環型社会の実現）

これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄の社会を転換するため、廃棄物の発生抑制、再利用や再生利用等の推進による環境への負荷の少ない循環を基調とする社会システムの構築、また未利用エネルギーの活用や省資源・省エネルギーを推進し、循環型社会の実現を図ります。

## 第4節 活力ある産業づくり

高度情報化をはじめとする技術革新の進展、消費者ニーズの多様化・高度化など加西市の産業を取り巻く社会経済環境は、大きく変化していることから、21世紀初頭に豊かでゆとりある市民生活を実現するため、時代の変化に対応できる「活力ある産業づくり」を推進します。

### （農林業の振興）

農林業は、食料などの生産だけでなく、市土の保全という重要な機能も果たしています。本市の農林業が、地域経済の活性化に重要な役割を果たすため、消費者の視点なども重視しつつ、多様で安全かつ良質な農林産物の生産を図ります。また、農地や森林は自然とのふれあいの場として貴重な空間であることから、その機能を活かし、都市住民との交流を積極的に推進します。

### （工業の振興）

経済の成熟化・ポータレス化の進展に伴い、産業全般における国際的な競争力の強化が必要です。このため、工業においては、内外の経済環境の変化に対応するため、新事業創出への支援、情報通信ネットワークの整備、高度な技術などを有する人材の育成・確保などにより、地域産業の高度化・高付加価値化を図ります。また、今後成長産業として発展が期待される情報関連産業、健康産業などの立地促進を図り、本市産業の活性化を推進します。

### （商業・サービス業の振興）

豊かな市民生活を創出するために、アメニティ豊かな魅力ある店舗・商店街の形成を図るとともに、生活の豊かさ・産業の高度化を支えるサービス業を振興します。

### （観光・ビジター産業の振興）

地域の資源、特性を生かし、個性と魅力ある観光地を形成するため、核となる観光拠点の整備を図るとともに、観光拠点のネットワーク化を推進します。  
また、観光客のリピートを促進するため、地域全体のホスピタリティーの向上を図るとともに、接客サービスの向上など関連産業従事者の人材育成と確保を図ります。

### （労働対策の充実）

労働に対する価値観が変化している中で、労働者の雇用の安定・確保や職業能力の開発を推進するとともに、高齢者の就業ニーズに対応した施策を展開します。また、時短や勤労者福祉などを推進することにより、ゆとりを持って、安心して働ける社会の実現を目指します。



## 第5節 次世代を支える基盤づくり

21世紀初頭は、大交流時代の幕開けになると言われています。各地域は、個性や特性を活かしながら、国内外の諸地域と経済、文化等の様々な分野で交流を活発化するとともに、地域間での機能分担・相互補完による連携が進むものと思われまます。

このため、様々な交流を支援する「次世代を支える基盤づくり」を推進します。

### (都市基盤の整備)

活力と賑わいに満ち、利便性が高く、安全で暮らしやすい空間づくりを推進するとともに、高齢化や情報化等の社会変化に対応したまちづくり、良質な住宅・宅地の供給など都市基盤の整備を図ります。

### (都市環境の創出)

ゆとりと豊かさを実感できる地域社会を創造するため、周辺環境と調和した質の高い社会基盤や生産基盤の整備等に努めます。

また、都市づくりに際しては、住民参加による計画づくりを推進し、自然環境との調和や歴史・伝統のある街並みを保全し、田園文化都市にふさわしい景観に配慮した魅力ある都市空間の形成を図ります。

### (交通基盤の整備)

従来からの行政区分である東播磨や西播磨地域という枠組みをこえ、県全域の中での交流圏の拡大を図るため、新しい交流軸の整備形成に向けた取り組みを進めます。このため、交流軸を支える基盤となる幹線道路、地区内アクセス道路の整備を行います。

また、主要ターミナルでのコミュニティバスを含むバス輸送と北条鉄道との連携により、市域全体の公共交通体系の一体化を推進します。

### (情報化の推進)

インターネットなど情報通信ネットワークを介した交流活動を活発化させるため、情報通信基盤の整備を推進するとともに、市内の情報通信環境の均一化に努めます。また、使いやすい各種情報システムの開発・普及などを通して、産業、教育等の分野から日常生活に至るまでの情報化の推進に努めます。

## 第4章 目標実現のための重点施策

### 第1節 重点施策の体系

市政の推進にあたっては、市民生活に関わる多岐にわたる分野の諸課題に的確に対応し、総合的な施策展開を図るとともに、加西市としての戦略的な政策目標を設定し、重点的な取り組みを進める必要があります。

このため、計画の基本目標である「花と歴史と愛のまち かさい」の創造を図り、将来的に活力とゆとりに満ちた「ふるさと夢都市」を実現することを基本的な目標として、相互に相乗的な効果（シナジー効果）が期待できる横断的な、次の10の重点施策を設定します。





## 第2節 重点施策の概要

### 1. いきいき人づくりプラン

人々の価値観の変化・ライフスタイルの多様化、高齢化、国際化、情報化といった社会環境の変化の中で、21世紀において、活力とゆとりある加西市を築くためには、各分野における人材の育成や集積、個人の生活における充実感が大切になってきます。

このため、あたたかな家庭を基本に子ども達の意欲や主体性など、いわゆる「生きる力」を養成するとともに、住民が快適な環境のもとで、文化活動、社会活動、学習やスポーツなど多様な活動が展開できるよう支援を行い、いきいきとした市民生活の実現を目指します。

#### アットホームづくりの推進

個性豊かなたくましい青少年の育成を図る基盤となるあたたかな家庭をつくるため、家庭教育の機能強化を促進します。

家庭教育に関する指導者の育成

子育て等に関する電話相談等の開設

子育て関係機関のネットワーク化の促進

#### 生涯学習の推進

誰もが自分の個性や能力を活かし、いつでもどこでも自由に学習の機会を選択し、学ぶことができ、その成果が適切に活かされる生涯学習社会の構築を推進します。

生涯学習体系の整備充実

学習者への適切な学習機会の提供

世代間交流の推進

#### ウォーキングの振興

歩くことは、健康の基本であることから、市民の体力や年齢に応じて、街中や自然、歴史を満喫できるウォーキングを振興します。

ウォーキングロードの整備

市民ウォーキングの振興

自然歴史探訪ガイドブックの作成

ウォーキング指導者の養成

#### 子どもの「生きる力」の育成

国際化・情報化など社会の変化に主体的に対応できる子ども達の能力の育成を図るとともに、自然観察やボランティアなどの体験活動を通して、公共心や他者への思いやり、たくましく生きる力を育成します。

ふるさとの豊かな自然や文化を学ぶふるさと教育の推進

外国語教育の充実や教員・生徒の海外派遣など国際化に対応した人づくりの推進

全児童・生徒がパソコンで学ぶ情報教育の充実

多様な体験活動の促進

#### 高等教育機関の誘致

若者の増加によるまちの活気や自然豊かで明るく元気なまちをつくるために、大学、短大および専門学校等の誘致を推進します。

大学・短大および専門学校等の誘致

### 2. 市民参画推進プラン

本格的な成熟社会に入り、真に豊かな「生活の質の向上」を図るため、共助・協働社会の実現が求められています。

このため、市民の主体的な参画・主導による地域づくりができるよう支援を行い、ボランティア、NPO、企業・団体などの多彩な活動を支える環境づくりを推進します。

#### 多彩な活動を支える環境づくり

市民の主体的な活動を支援し、他の地域との交流や連携を促進し、充実した市民生活を実現するため、ボランティア、NPOなどの社会活動等、個性にあった多様な活動を支援する環境づくりを推進します。

ボランティア活動への情報提供や技術研修

NPOの活動支援

まちづくりリーダーなど人材育成

### 3. 健康都市推進プラン

私たちは誰もが健康に暮らすことを望んでいますが、健康な暮らしを阻害する生活習慣病などの環境要因もあります。

このため、市民一人ひとりが自ら意識して、健康づくりに取り組めるよう地域社会全体で支援し、豊かな人生を歩むための健康都市のまちづくりを推進します。

#### 健康都市のまちづくり

市民一人ひとりのライフスタイルに合わせた体系的な健康づくりを予防に力点を置きながら進め、生涯を通じて健康であることを目指す健康都市のまちづくりを推進します。

地域ぐるみの健康づくり組織の育成

健康教育、健康相談の充実による健康管理体制の確立

あったか友愛訪問活動の推進

#### 日本型食生活の推進

ごはんを中心に魚、野菜、大豆などの伝統食材に四季折々の多様な食品を組み合わせることにより、理想的な日本型食生活を提案し、市民意識の醸成に努めます。

ごはんを食べよう運動の推進

## 4. 安心生活推進プラン

私たちは誰もが自分の意志で行動することができ、安心して生活できることを望んでいます。

このため、障害者や高齢者など誰もが容易に社会参加できる心理的にも物理的にも障壁のない、人にやさしいまちづくりを推進します。また、高齢者が病気になったり介護を必要とするようになった場合でも、適切なサービスが受けられる仕組みづくりを構築します。

### 人にやさしいまちづくり

誰もが自由に出かけられ、円滑に動けるよう、ユニバーサルデザインを基本に住まいの整備やまちの中の建物や道路、公園の環境改善を図ります。また、高齢者や障害者に対する理解を深めるため、啓発を進め、行政、事業者および市民が一体となったまちづくりを推進します。

人が多く集まる場所の段差解消など福祉のまちづくりの推進

### 安心して暮らせる社会づくり

高齢者や障害者が、家庭や地域で安心して生活できるよう、保健・医療・福祉の相互連携のもとに施設の整備や人材の育成等を図り、適切なサービスが受けられる体制を整備します。

また、少子化に対応して子育て支援を推進します。

ホームヘルプサービスの充実などの在宅福祉対策の推進

高齢者がボランティア活動など社会活動に容易に参加できる環境づくり

高齢者の持つ知識・経験を活かした就業機会確保などの生きがい対策の推進

子どもを持ちたい人が安心して子どもを産み育てることができる環境づくり

## 5. フラワー都市創出育成プラン

市民や来訪者にとって加西市が魅力的な都市であるためには、加西の街を花にあふれた都市とすることが、最大の課題です。

花のまちづくりの原点は、家庭での花づくりであることから、これを支援するとともに、花づくり事業に係るコミュニティ・ビジネスの立上げ支援を行い、街かど、街中に花の回廊をつなげていきます。

### 花咲く街かどづくり

快適で魅力ある都市とするため、街かどに積極的に「花」を取り込むことによって、都市景観の向上とるおいのあるまちづくりを推進します。

パートナー花壇の設置・管理（市が場所を提供、花苗から管理までボランティアが管理）

フラワーバンク制度の創設

花咲くまちづくりコンクールの実施

### 生ごみでつくる花と緑のまちづくり運動

市民が、これまで捨てていたものに少し手をかけて活かし、廃棄物ゼロ社会であるゼロ・エミッションの取り組みの一貫として、生ごみでつくる花と緑のまちづくり運動を推進します。

生ごみの堆肥化

家庭花づくり運動の推進

### 景観作物による花畑の創出

転作田でコスモス、ひまわり、れんげなどの景観作物をまとまった範囲で植栽し、四季折々色づく花畑の創出を図ります。

景観作物植栽奨励運動の推進

### 花づくり事業の育成

花づくりの基本である苗づくりから花の植栽、花を活かした環境デザインまで、市民が中心となったコミュニティ・ビジネスの立上げ支援を行い、花づくり事業を育成します。また、企業等に対しても花づくりの協力要請を行います。

花づくりコミュニティ・ビジネスの育成支援

企業等への協力要請



## 6. エコシティ推進プラン

自然と人間が共生することができる豊かな環境を保全し、環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会づくりが求められています。このため、加西らしい美しい景観の形成、環境にやさしいライフスタイルの定着化を図るとともに、クリーンエネルギーにより環境汚染物質を排出しないクリーンシティづくりなど環境共生型のエコシティを推進します。

### 加西らしい美しい景観の形成

自然や風土、歴史、文化など長年にわたり形成されてきた地域の優れた景観を保全するとともに、加西らしい地域景観に調和した施設整備や街並みの形成を推進します。

- 市民参加の下に実施する環境美化運動の更なる推進
- 点在する皿池を利用した蓮作り運動の奨励
- 人と森が共生できる里山再生プロジェクトの推進

### 環境にやさしいライフスタイルの定着化

市民一人ひとりが、日常の行動と環境の関わりについて理解を深め、環境に配慮した事業活動やライフスタイルを実践していくために、環境問題に係る教育の充実を図るとともに、環境への負荷の少ない商品やサービスの購入促進、廃棄物の再利用・再資源化を推進し、環境にやさしいライフスタイルの定着化を図ります。

- 市民に対する環境問題に関する情報の提供
- 市民自らが住みやすい環境づくりを進める意識の高揚

### クリーンシティづくり

地球環境等に対する環境負荷の軽減を図るため、太陽光等の自然エネルギーの利用やエコアクションデ-の普及啓発などにより、化石燃料の使用を抑えるクリーンシティづくりを推進します。

- 新エネルギーの導入促進
- 低公害車（ハイブリッドカー・電気自動車等）の導入促進
- 自転車利用の促進

## 7. 地域産業創出育成プラン

経済のグローバル化に伴う国際競争の本格化、情報化の進展、消費者ニーズの多様化、知識集約化を軸として、我が国の産業構造は急速に変化しています。また、規制緩和の推進による高コスト構造の是正など、経済構造改革が進められています。このような中で、本市経済が中・長期的に持続的な発展を図るために、加西南産業団地等の産業基盤の資源を生かし「活力とゆとり」をもたらす地域産業の創出育成を促進します。

### 地域産業の高度化・新分野への進出

- 産学官のネットワークを構築して、地域産業の高度化を図るとともに、新分野への進出支援を行います。
- 神戸大学付属農場、県中央農業技術センター、播磨農業高校などの産学官ネットワークの構築
- 新製品・新技術等の事業化シーズや技術革新のアイデアを得る環境整備
- 地域産業の新分野への事業展開の支援
- 地域産業のマーケティング活動に対する支援

### 産業団地等への企業誘致

地域における安定的な経済発展、雇用機会の確保を図るため、産業団地等に情報関連産業や健康産業などの、今後の成長が期待される分野や、本市経済をリードする企業など様々な業種の企業の誘致を図ります。

### 産業団地等への企業誘致

### 人材の育成・確保

- 高度で優れた技術・知識を有する人材を育成するために、地域企業の研究者・技術者の育成支援や地域産業の創造的活動に必要な高度な専門的知識を有する人材の育成・確保を図ります。
- 技術者のUターン、Jターン、Iターンを促進するための情報提供機能の強化

## 8. 快適休養都市創出プラン

今後、都市でのライフスタイルとして、一定期間をやすらぎのある空間で過ごしなが、都市における心身のストレスを癒し、新たな活力を得るといふ余暇活動に対する需要が高まるものと予想されます。

このため、加西市の花や豊かな自然、歴史文化を有する地域にスポットを当てながら、「ゆとりと体験と交流」を基本として、南北3軸・東西3軸からなる交流軸を整備するとともに、個性輝く多様な観光地が連なる「快適休養都市づくり」を推進します。

### 南北3軸・東西3軸構想の推進

中国自動車道や山陽自動車道の国土軸と舞鶴自動車道や播但連絡道の高速ネットワークと連携し、交流を促進する南北3軸・東西3軸構想を推進します。

南北交流軸の整備【(仮称)加西中央幹線、姫路加西連絡道路、高砂加古川加西線】

東西交流軸の整備【三木山崎線、滝野市川線、小野香寺線】

国道372号線の整備

### 多様な観光空間づくり

滞在型・通年型の観光・リゾートを推進する柱となる活動メニューの多様化を図るため、地域特性を生かした核となる交流拠点の形成を図るとともに、自然、歴史、文化の保全と持続的な活用に努め、農林業や地域産業、特色のある企画・イベント等とリゾートを有機的に組み合わせることにより、花を活かした都市との交流を促進します。

五百羅漢や北条まちなみ周辺ゾーン整備の推進

玉丘古墳群やフラワーセンター周辺ゾーン整備の推進

古法華・一乗寺周辺ゾーン整備の推進

特色ある花木の植栽の推進

温泉の開発

### 温もりのある快適な観光環境づくり

質の高いホスピタリティーは、地域の食材を生かした食べ物とともに、地域に魅力を感じ、その地を繰り返し訪れるリピーター獲得の重要な鍵となるため、温もりのある快適な観光環境づくりを推進します。

観光関連産業における各種サービスの充実や接客マナーの向上

住民参加の地域全体の取り組みにより、観光客が心地よく滞在できる環境づくり

## 9. 中心市街地活性化プラン

中心市街地は、かつての門前町として賑わい、また商店街として栄えましたが、現在では空洞化が進行しています。このため、北条町駅周辺地区の再開発事業を核として、「中心市街地活性化基本計画」に基づき、市街地の活性化を推進します。

### 交流のまちづくり

旧市街地と新市街地の中間に位置する北条町駅周辺整備と地域交流活動を促進し、人や物、情報が交流するまちづくりを推進します。

北条町駅周辺整備（商業ゾーン整備、地域情報交流拠点整備等）

地域交流活動の推進（地域のグループ活動に対する支援等）

旧街道や社寺の活用（散策道整備等）

祭の活用（節句祭りの活性化等）

### 賑わいのまちづくり

交流のまちづくりと一体となって、ゆったり暮らせ、旧市街地と新市街地との間で賑わいが連鎖するまちづくりを推進します。

市街地の魅力向上（空き家・空き店舗を利用した自由空間の提供に対する支援等）

ソフト事業の展開（高齢者世帯に対するサービス提供、まちづくり地域リーダーの育成等）

住環境整備（共同化の促進等）

## 10. 高度情報化推進プラン

情報通信（IT）技術の急速な発達により、社会経済の仕組みが大きく変化しつつあります。

このため、インターネット等の情報技術を活用することにより、人や物、情報等の活発な交流を通じ、21世紀の加西を先導する新しい産業や文化の創造が図られるよう努めます。

### 地域情報ネットワーク構想の推進

高速大容量の情報通信網の整備をシステムのセキュリティや個人情報の保護に配慮しつつ促進するとともに、インターネットなど関連技術の進展を踏まえながら、市民が必要な情報を容易に入手できる環境整備を進めます。

民間主導による情報通信基盤整備を原則とした、高速・大容量・双方向の「地域情報ネットワーク」の整備推進

誰でも、いつでも、どこでも情報を入手できるインターネット環境の促進

### ネットワーク型社会への対応

保健・医療、福祉、教育、防災、産業など多様な分野における情報化を推進するとともに、誰もが恩恵を受けられるよう情報化への対応能力（情報リテラシー）の向上、情報弱者対策等を総合的に行うことにより、豊かな生活と活力ある産業の実現を目指します。

ホームページの整備充実とインターネットによる行政サービスの提供

豊かで便利な生活を実現する情報システムの整備

SOHO（情報機器を活用した家庭や小規模事務所での事業）など多様な就業形態の普及拡大



# 基本構想

## 第5章 市民と行政の協働による計画実現に向けて

加西市を取り巻く社会経済情勢の中で、計画に盛り込まれた施策を着実に推進し、その実効性を確保するためには、市民一人ひとりが、この計画を自分のものとして受け止め、主体的に取り組むとともに、企業、民間、行政が協働・連携していく必要があります。

また、21世紀は地方分権が本格的な実行段階となり、実態に即した地域の主体的な政策の展開や地域経営の方策が問われる時代となっています。

このため、この計画を誠実に実行し、市民の期待と信頼に応える責務を負っているという認識に立って、次のような取り組みを進めます。

### 第1節 市民参画・協働によるまちづくりの推進

これまで長い歴史の中で、特に生活に関わるサービスは行政が中心となって担ってきましたが、今や行政セクターだけでは真の豊かさにつながる「生活の質の向上」が実現できなくなっています。このため、計画の基本目標を実現していくためには、行政だけでなく、市民や企業・NPOなどを含めて、各主体が、それぞれの立場に立って役割分担しつつ、一体的に連携の上、協働してまちづくりに取り組みます。

ここで、各主体が基本的に担うべき役割は、次のように考えます。

民間主体（市民、企業、NPOなど）

・市民、地域、企業、NPOなどの民間主体は、それぞれ自らの創意工夫に基づき、自由で自律的な活動を展開することで、新しい時代の地域社会を主体的につくりあげていきます。

公的主体（国・県・市など）

- ・まちづくり、福祉などに関する計画策定や制度的な枠組みの整備、これに関する調整を行います。
- ・支援を必要とする人たちを支える仕組みが、社会全体として確立されるよう、行政として必要な取り組みを進めます。
- ・民間では、量・質において必要とする供給が期待できない基盤整備やサービスの提供を行います。

このような協働によるまちづくりを推進するため、民間主体と公的主体の協働・連携の仕組みづくりを確立します。

また、市民参画のまちづくりの基本として、男女が共にいきいき生活でき、あらゆる分野に平等に参画できる社会づくりを推進します。

### 第2節 地方分権時代における行財政運営の確立

地方分権をはじめとする時代の要請や地域の多様なニーズに柔軟に対応し、質の高い市民サービスを提供するため、地方分権時代に即した効率的な行財政運営の基盤の確立が求められています。

このため、高度化、複雑化、多様化する行政需要への適切な対応と地方分権の推進を図るため、計画的かつ効率的な行政運営を推進します。

また、常に経常経費の抑制や新たな財源の確保に努めながら、行政サービスの統合化、複合化や効果的な事業評価を行うことにより、効率的・計画的な財政運営を推進し、社会情勢や行政需要の変化に柔軟に対応できる財政基盤の確立を図ります。さらに、より効率的かつ効果的な行政目的の達成を図るため、情報技術の活用は当然として、既存の市町の枠組みにとらわれず、市民の日常生活圏、交通・経済による共通圏域などを単位として、共同処理や行政連携をはじめとする広域的な対応の充実に取り組みます。